

第4期NBRP・コムギ 第5回運営委員会

議事録

日時： 2021年8月31日（火）13:00～15:00

場所： 京都大学 農学・生命科学研究棟 農学専攻セミナー室（1）及びZoom

出席者：27名

（1）運営委員：

松岡 由浩（委員長）、大田 正次、川浦 香奈子、川本 祥子、小林 正智、

佐久間 俊、佐藤 和広、佐藤 豊、辻本 壽、土佐 幸雄、半田 裕一、森 直樹、

吉田 健太郎

（2）実施者：

寺内 良平（課題管理者）、那須田 周平、太田 敦士、新田 みゆき

（3）研究協力者：

竹中 祥太朗、西田 英隆

（4）その他

文部科学省：辻山 隆、齋藤 正明、本間 棕、古田 和輝

NBRP 事務局：鈴木 智広、伊東 真知子

NBRP 広報室：高祖 歩美

京都大学大学院農学研究科 栽培植物起原学分野：堺 俊之

議長：松岡

書記：新田

【報告等】

(1) 運営委員の加入について (資料 2-1)

森 直樹 氏、佐久間 俊 氏、吉田 健太郎 氏が新しい運営委員として紹介された。

(2) 第 4 期 NBPR・コムギ 第 4 回 運営委員会議事録確認 (資料 1、2)

訂正等なし

(3) 第 4 期 NBPR・コムギ 組織確認 (資料 2-1)

訂正等なし

(4) 小委員会 (5 月 31 日) の開催について (資料 3)

資料のように報告された。

(5) 2020-2021/2021-2022 年事業計画等の報告

- ・種子リソース増殖（資料 4）

発芽試験について、*Triticum* では貯蔵年数 17 年、*Aegilops* では貯蔵年数 30 年で発芽率の下降がみられるとの注目すべき結果が報告された。収穫した系統の在庫管理データベースへの入力と種子貯蔵庫への入庫作業に時間がかかっていることから、実施者で対応を検討することになった。

- ・種子リソース配布（資料 5）

資料のように報告された。

- ・NAM 集団ワーキンググループ（資料 6）

資料のように報告された。

- ・アーカイブ化ワーキンググループ（資料 7）

・2019 年 5 月に京都大学農学研究科に寄贈された田中正武博士資料について、京都大学研究資源アーカイブによるアーカイブ化作業が進められている。

・京都大学農学研究科に寄贈されることが決定している木原均博士資料について、年度内を目処に、京都大学に移送し、京都大学研究資源アーカイブと連携して、アーカイブ化作業を行う予定。

・山下孝介博士資料については、京都大学農学研究科への寄贈手続きを進める。

- ・KOMUGI データベースワーキンググループ（資料 8）

資料のように報告された。

・学会等での活動（資料 9）

日本植物生理学会（2022 年 3 月 22 日から 3 月 24 日）で NBRP シンポジウムの企画が申請されており、採択されれば NBRP コムギから発表予定であることが資料への追加として報告された。

(6) 寄託システムの運用について（資料 10）

寄託システムは完成しており、国内からの委託は受け入れ可能である。今後は国内寄託の促進に努めるとともに、海外からの寄託を受け入れるシステム作りを進める。

(7) 第 4 期 事後評価 結果報告について（資料 11）

(8) ヒアリングについて（資料 12）

実施代表者より、（7）（8）を合わせて報告された。NBPR コムギの「今後の見通し」について、現時点でユーザーが発表する論文の質的向上が顕著に見られることなどを踏まえて、（1）ゲノム情報の充実、と（2）パンコムギ以外のリソース（一粒系コムギ、二粒系コムギ、エギロップス植物）での NAM 集団の作出、を行い、「フォワードジェネティクス」（順遺伝学）を推進するリソースを整備することで、第 4 期の成果のさらなる展開（例えば、近年特に重要性が増している病害抵抗性や高温乾燥耐性遺伝子の単離の加速）が、十分期待できるとヒアリング（2021 年 8 月 24 日実施）等で説明した、と報告された。また、得られた成果を発展させ、今後の

展開をより確かなものにするため、NBRP コムギ実施の学内体制の「センター化」を目指す方針であることが説明された。

【審議】

(1) 第5期申請について

第5期申請のスケジュールについて、文部科学省担当者から説明された。実施代表者より、改めて、ゲノム情報の充実とパンコムギ以外のリソースでのNAM集団の作出を軸として申請すること、NBRP コムギ実施の学内体制の「センター化」を目指す方針であることが説明され、了承された。また、次の点について、さらに検討すべきとの意見が出された。

- ・コムギは、エギロップス属からユニークな特性を交配で導入でき、また、異種間交雑や異種染色体添加が容易であるという顕著な特徴を有する。これらを踏まえ、合成コムギ、germplasm enhancement, pre-breedingなどをキーワードに、コムギから新しい植物科学の世界を切り開くことの推進に資する活動をすること。
- ・研究手法ニーズ（形質転換、染色体ペインティング、異種間交雫など）、研究環境ニーズ（遺伝子組換え体の圃場での栽培、周年で健全に栽培できる設備など）、そして社会的ニーズ（新しく発生する病害への対応など）を考慮してユーザーを支える体制を作ること。

- ・コムギ研究者が多い海外のコミュニティと連携し、NBPR コムギの国際的な認知の向上を図り、ユーザーの増加に繋げること。
- ・ゲノム情報をリソースにつけることについては優先順位を考えること。
- ・ユーザーが真に必要とするリソースを開発すること。

(2) その他

なし。

【その他】

(1) 次回小委員会について

2022年3月の日本育種学会講演会に合わせて開催する。

(2) その他

なし。

以上